

環境活動レポート

平成28年度

活動期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日



平成29年6月1日作成

株式会社池田商店

環境方針

[理 念]

当社は、現代社会において地球環境の保全、及び低炭素社会の構築が最重要課題であること、またそれらの構築に重要な役割を担っている企業であることを認識し、産業廃棄物の中間処分業を通して廃棄物の再生使用と資源化を促進すると共に産業廃棄物の最終処分量の削減を図ることによって、環境保全に努め、循環型社会の形成に貢献します。

[方 針]

環境保全に貢献することが、当社の事業活動の根幹を成す重要課題でありますので、日頃の事業活動の中で環境保全に配慮して以下の活動を行います。

- 1) コンクリート製建造物の解体に伴い発生する廃棄物を処理し、路盤材等に再生する事業活動に於いて、環境に与える影響を的確に把握し、技術的、経済的に可能な範囲で環境目標を定め、管理プログラムを設定し、これを実行すると共に、定期的見直しを行い、環境汚染防止及び環境保全活動の継続的改善とその向上を図ります。
- 2) 環境保全に関する法規制を遵守して環境保全に取り組めます。
- 3) 保全活動を推進するための環境管理組織を整備し、活動目標を定め全員参加で推進します。
- 4) 事業活動の中で、特に以下の項目について積極的に保全活動を推進します。
 - ①. 産業廃棄物最終処分ゼロ活動
受け入れた産業廃棄物は、分別を密に行い、100%リサイクルを目指すと共に適正な廃棄処理を行います。
 - ②. 節水活動
作業場における発塵防止散水を行って地域社会への影響を抑えます。一方、節水に努めて散水を行います。
 - ③. 省エネルギー活動
 - a) 事業設備及び事務所における省電力に努めます。
 - b) 輸送及び作業用車両のエコドライブと保守点検の励行に努め、温暖化ガスの排出削減に努めると共に作業の安全確保に努めます。
 - ④. 環境保全活動
 - a) 自社から排出する廃棄物は減量化及びリサイクルを図ります。
 - b) グリーン購入を積極的に図ります。
 - ⑤. 受託した廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮
 - a) ドライブレターによる収集運搬車の燃費向上と安全確保を図ります。
 - b) 構内で使用する重機の軽油使用量の削減を図ります。
- 5) 構内の清掃、工場周辺の環境整備を推進すると共に、周辺地域とコミュニケーションを図り、地域社会に貢献します。
- 6) 環境教育を実施し全社員が環境方針の遂行に当たり環境に関する意識向上を図ると共に、取引先へも環境基本方針を周知し、理解と協力を要請します。

平成20年7月1日制定
平成26年7月1日改訂

株式会社池田商店

代表取締役 **粕谷 毅**

2 事業活動の概要

1) 事業所名及び代表者名

株式会社 池田商店

代表取締役

粕谷 毅

2) 所在地

○本社： 〒241-0802 神奈川県横浜市旭区上川井町2046番地13-2階C

○横浜工場： 〒241-0802 神奈川県横浜市旭区上川井町2446外6筆

3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者： 横浜工場長 倉内 崇行

連絡先 : 事務局 大平 達也

電話 045-924-6025 FAX 045-924-6026

4) 事業の規模

a) 法人設立年月日 昭和49年10月1日

b) 資本金 2,400万円

c) 社員数 27人 (平成29年4月1日現在・役員含む)

d) 売上高 7.72億円(平成28年度)

5) 会社の沿革

a) 平成20年4月株式会社池田商店を株式会社タケエイが買収し、100%子会社になった。

b) 合併を円滑に立ち上げるために、旧株式会社池田商店本社を本社事務所としていたが、業務効率のために、平成25年2月本社事務所を横浜工場付近に移設した。

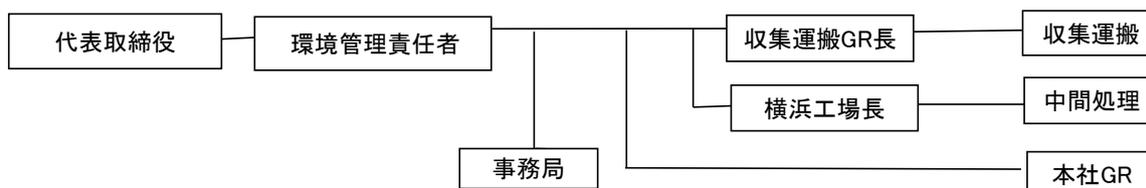
3 認証登録範囲

1) 対象事業所: 本社、横浜工場

2) 事業の活動: 産業廃棄物の収集運搬及び中間処分、再生砕石の販売

4 EA21 推進体制

1) 推進体制



2) 責任と権限

職務	責任及び権限
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針を策定する。 EA21の実行に必要な資源を用意する。 環境管理責任者を任命する。 EA21の全体的な取り組み状況を評価し、見直し、必要な指示を行う
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムを構築し維持する。 環境経営システムの構築、運用状況を代表に報告する。 環境活動レポートを取りまとめる。 環境活動に関し代表に上申する。
収集運搬GR長	<ul style="list-style-type: none"> 収集運搬に関する現場指揮及び実績管理 配車指示、収集運搬作業およびEA21活動現場責任者
横浜工場長	<ul style="list-style-type: none"> 中間処理に関する現場指揮及び実績管理 プラント運転、製造、保管およびEA21活動現場責任者
事務局	環境管理責任者を補佐し、環境経営に関する実務の中核業務の推進
従業員	方針、目標、活動計画に基づく活動及びEA21の取組みに関する提言

5 産業廃棄物の収集運搬及び中間処分量の許可の内容

1) 産業廃棄物収集運搬業(許可番号一覧)

●：石綿含有産業廃棄物を含まない ○：石綿含有産業廃棄物を含む

都道府県・市名	業区分	優良認定	許可番号	許可の年月日	許可の有効年月日	燃え殻	汚泥	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	金属くず	ガラスくず及び陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん
横浜市	処分(中間処理)	★	第05620020263号	平成28年11月1日	平成35年10月31日								●	●	●	
神奈川県	収集運搬	★	第01403020263号	平成28年8月23日	平成35年8月12日	●	○	●	●	●	●	●	○	●	○	
東京都	収集運搬		第1300020263号	平成26年7月1日	平成31年6月30日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
千葉県	収集運搬		第01200020263号	平成27年6月29日	平成32年6月28日		○	●	●	●	●	●	○	●	○	
埼玉県	収集運搬		第01100020263号	平成27年6月18日	平成32年6月17日			●	●	●	●	●	●	●	●	
茨城県	収集運搬		第00801020263号	平成27年8月25日	平成32年8月24日			●	●	●	●	●	●	●	●	
群馬県	収集運搬		第01000020263号	平成27年8月19日	平成32年8月18日			●	●	●	●	●	●	●	●	
栃木県	収集運搬		第00900020263号	平成27年5月31日	平成32年5月30日			●	●	●	●	●	●	●	●	
山梨県	収集運搬		第01900020263号	平成25年2月20日	平成30年2月19日	●	●	○	●	●	●	●	●	●	○	●
長野県	収集運搬		第2009020263号	平成25年2月14日	平成30年2月13日	●	●	○	●	●	●	●	●	●	○	●
岐阜県	収集運搬		第02100020263号	平成25年3月25日	平成30年3月24日	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	●
静岡県	収集運搬		第02201020263号	平成25年4月8日	平成30年4月7日	●	○	●	●	●	●	●	○	●	○	●
石川県	収集運搬		第01702020263号	平成25年3月29日	平成30年3月28日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

2) 産業廃棄物中間処分量

- ①横浜市 a. 第56-20-020263号 許可:平成28年11月1日 有効:平成33年12月31日
 b. 破碎施設 移動式1基(297t/日)、移動式1基(675t/日)
 c. 産業廃棄物の種類 ガラスくず及び陶磁器くず、鉱さい、がれき類
 (除く特別管理廃棄物)

3) 施設等の状況(積替保管施設なし) (H29年4月1日現在)

ダンプカー	14台
破碎施設	移動式1基(297t/日)
破碎施設	移動式1基(675t/日)
ユンボ	5台
ミニユンボ	1台
ホイールローダー	2台

6 処理実績

産業廃棄物収集運搬実績	平成28年度	73,031 (t)
産業廃棄物処分量実績	平成28年度	183,275 (t)

7 処理フロー図

■ 収集運搬



■ 保有車輛

・10tダンプ	13台
・4tダンプ	1台

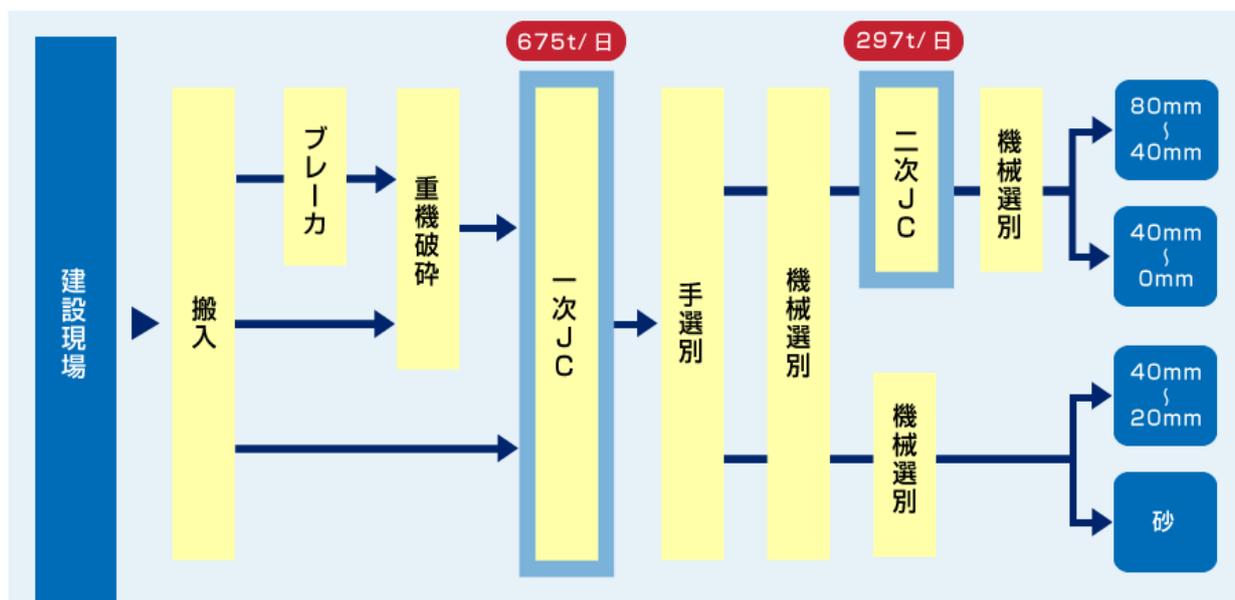


ダンプのあおりが改造されており、杭頭・橋脚の受入が可能

他社では困難で割高な大塊・自然石の受け入れ状況



処理フローのご案内



※ 鉱さいの受入について

当社では、製品の管理基準を設けているため土壌環境基準(46号・19号)をクリアしたものののみ受入対象としております。さらに性状等なども検討させていただき、最終的な受入可否を判断しております。

リサイクル製品のご案内

RC40-0、RM40-0、RCダスト(10-0)、RC80-60、RC40-20、の5種類とバリエーションに富んだ再生砕石を生産しております。

The product showcase displays five types of recycled crushed stone: RC80-60, RC40-20, RC40-0, RM40-0, and RCダスト(10-0). A red box highlights that these products are not produced by competitors and require special technology for manufacturing.

同業者では、殆ど生産されていない。
左記の製品製造は、特殊な技術が必要である。

再生砕石の種類が豊富なので、お客様のご要望にお応えできます！

7 環境目標とその実績

7.1 中期計画

項目		単位	基準年 (平成25年度)	26年度 (目標値)	27年度 (目標値)	28年度 (目標値)
電気 使用量	横浜工場	Kwh/年		△0%	△0%	△0%
			150,309	150,309	150,309	150,309
		kwh/処分量	1.21	1.00	1.00	1.00
	本社	Kwh/年		△0%	△0%	△0%
			8,433	8,433	8,433	8,433
	全社	Kwh/年		△0%	△0%	△0%
			158,742	158,742	158,742	158,742
	軽油使用量(重機)	L/年		△1%	△2%	△3%
			115,353	114,199	113,046	111,892
		L/処分量	0.93	0.76	0.75	0.75
軽油使用量 (収集運搬車両)	L/年		+5%	+10%	+15%	
		195,008	205,000	215,000	224,000	
	L/収集量	4.06	4.18	4.30	4.39	
ガソリン使用量 (営業車両)	L/年		3.6%	8%	+10%	
		4,440	4,600	4,800	5,000	
	km/l	17.6	17.9	18.2	18.5	
温室効果ガス排出量(※)	kg-CO ₂ /年			+2.6%	+5.3%	+7.7%
		888,615	912,181	935,862	956,917	
水使用量(総排水量)	m ³ /年			+20%	+20%	+20%
		1,474	1,782	1,782	1,782	
	L/処分量	11.88	11.88	11.88	11.88	
	本社		チェックシートで定性管理			
自社一般廃棄物の削減	kg/年		△0%	△0%	△0%	
		648	648	648	648	
産業廃棄物の収集運搬量	t/年		+2%	+4%	+6%	
		48,078	49,000	50,000	51,000	
産業廃棄物の処分量 (リサイクル量)	t/年		+21%	+21%	+21%	
		124,046	150,000	150,000	150,000	
グリーン購入	%	100	100	100	100	

注) 電力の二酸化炭素排出量算出は、排出係数0.402kg-CO₂/kWhを用いています。

〔中期目標値の設定の考え方〕

- ① 25年度実績値を元に、第3次中期環境目標値の設定を行う。
- ② 横浜工場の電力使用量は総量、原単位共に限界値と思われるので、25年度横這いとする。
- ③ 工場内重機の軽油使用量は、分別作業の効率化、低燃費ホイールローダーへの重機更新等を見込み処理量当たりの燃費削減に努める。その結果、リサイクル量増加であるが、使用量の削減を見込む。
- ④ 収集運搬用軽油使用量は、走行距離増が毎年予想されるので、H25年度実績の5%増とした。
全ダンプ車にドライブレコーダーを設置したので、H26年度より燃費管理、最適走行ルートの指示を徹底し、軽油使用量の一層の削減を推進する。
- ⑤ ガソリン使用量は、営業圏の拡大に伴う走行距離増を見込んで設定する。参考に燃費データを合わせて採取し、エコドライブの実施状況を自己管理を行う。
- ⑥ 発菌防止用散水は、処分量増に伴う使用量増は散水方法の工夫で最小限とし、原単位はキープする。
メーカー委託を受けて再生砕石を原料に、雨水貯留浸透骨材の製造を開始した。多量の水を原料に使用するので使用量は別途管理する。 本社の水道使用量は家賃に含まれるため、チェックシートで節水を評価する。
- ⑦ 自社排出一般廃棄物削減は、排出量抑制に努力する。
- ⑧ グリーン購入は可能な限り再生品の使用を心掛ける。年度末にチェックシートで活動を評価する。

7.2 H28年度実行目標値(中期計画の見直し)

項目		単位	基準値 (平成25年度)	27年度 (実績値)	28年度 (改定目標値)	28年度参考 (中期目標値)
電気使用量	横浜工場	Kwh/年	150,309	169,061	195,500	150,309
		kwh/処分量	1.21	1.18	1.12	1.07
	本社	Kwh/年	8,433	9,308	9,000	8,433
		Kwh/年	158,742	178,369	204,500	158,742
	軽油使用量(重機)	L/年	115,353	153,433	186,000	111,892
		L/処分量	0.93	1.07	1.06	0.75
	軽油使用量(収集運搬車両)	L/年	195,008	193,928	220,000	224,000
		L/収集量	4.06	3.28	3.01	4.39
ガソリン使用量(営業車両)	L/年	4,440	4,390	5,000	5,000	
温室効果ガス排出量 * 電力排出係数0.464kg-co2/ kwh		kg-CO2/年	電力排出係数が異なる	100	117	基準
水使用量(総排水量) (横浜工場)		m ³ /年	1,474	1,322	1,500	1,663
		L/処分量	11.88	11.88	8.57	11.88
		本社		チェックシートで定性管理		
自社一般廃棄物の削減		kg/年	648	588	648	648
産業廃棄物の収集運搬量		t/年	48,078	59,051	73,000	50,000
産業廃棄物の処分量 (リサイクル量)		t/年	124,046	143,657	175,000	140,000
業務の環境への配慮		年次計画	環境&安全	防災備蓄品の見直し、地域融和の促進		
グリーン購入		%	100	チェックシートで定性管理		

(**) CO2排出ガス目標値には、都市ガス&灯油は含んでいない

[H28年度目標値の設定の考え方]

- 27年度実績値を元に、中期環境目標値の見直しを行う。
- 景気回復に伴い、産廃・商品の運搬量が15%、処分量が20%程度増加見込みに伴い、原単位を下げつつ電気、軽油の使用量の見直しを行った。
- 横浜工場の電力使用量は処理増による作業率向上を見込み、処理量原単位を約5%削減を図る。
- 工場内重機の軽油使用量は、分別作業の効率化、低燃費ホイローダーへの重機更新効果を見込むが、原単位は限界値と思われるので、27年度実績値横這いとする。
- 収集運搬用軽油原単位は、秋に省エネダンプ2台増車予定のため、H27年度実績値の10%減とした。更なる往復輸送の推進、デジタルドライブレコーダーの活用で燃費管理、最適走行ルートの指示を徹底し、軽油使用量の一層の削減を推進する。
- ガソリン使用量は、営業圏の拡大に伴う走行距離増を見込んで設定する。
- 発菌防止用散水は、原料(再生処理前ガラ等)及び製品(再生砕石)への散水を計画する。本社の水道使用量は家賃に含まれるため、チェックシートで節水を評価する。
- 自社排出一般廃棄物削減は、排出量抑制に努力する。
- 企業の環境配慮として、首都直下型地震対応として防災関係の見直しと、地域融和促進を環境目標に設定す。
- グリーン購入は可能な限り再生品の使用を心掛ける。年度末にチェックシートで活動を評価する。

7.2 主な活動内容とその結果(平成28年度)

区分	項目	平成28年度の環境活動の取組施策	責任者	評価
二酸化炭素の削減	軽油・ガソリン使用量の削減	① 車輛エコドライブ(アイドリングストップ)	収運	○
		② 重機の効率的な使用(アイドリングストップ)	収運	○
		③ 燃費管理データ収集	収運	○
		④ 定期点検の徹底	収運	○
		⑤ デジタルタコメータによる安全・エコ運転監視、点数化	収運	○
	電気使用量の削減	① 節電告知ラベル貼付	本社	○
		② エアコン省エネ設定運転	本社	○
		③ 不必要照明消灯(減灯)	本社	○
		⑤ クールビズ・ウォームビズの展開	本社	○
		⑥ 節電製品・機器への切替	全社	○
		⑦ 高効率タイプ(LED)照明器具への切替	本社	○
		⑧ 冬場の電気暖房から灯油暖房への切替	本社	○
		水資源	地下水使用量の削減	① 適正散水実施
② 雨水利用(発塵防止散水、車両洗浄に活用)	処理			○
③ 洗車水、散水の節約	処理			○
リサイクルの拡大	最終処分量の削減	① 手分別作業の改善	処理	○
		② 分別作業の標準化	処理	○
		③ 処分方法の見直し	処理	○
	リサイクルの拡大	① 金属類・廃プラ・木屑の分別回収による資源化	処理	○
		② 大塊・自然石等の他社受入困難物の積極的な受入と再生化	処理	○
		③ 他社では困難な大型再生砕石化の差別化技術を確保	処理	○
		④ 自社製品を活用する新製品・新用途の積極的な開発	全社	○
一般廃棄物の削減		① 紙類の分別回収と裏紙の積極使用	本社	○
		② ビン・缶等の分別回収ボックスの適正配置	全社	○
		③ 発生したごみは可能な限り、圧縮等を行い、減量している	全社	○
グリーン購入他		① エコマーク文房具の購入拡大	全社	○
		② 修理可能な製品の優先購入	全社	○
		③ 工場内の5Sの徹底、安全パトロール強化	全社	○
		④ 事業所周辺の環境や生き物の保全活動を行っている	全社	○

(1) 過去3年間の活動実績推移

項目	単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績	備考
温室効果ガス排出量(総排出量) (都市ガス&灯油を含む)	Kg-CO ₂ /年	995,240	1,007,623	1,133,701	H27年度より排出係数変更
	電力排出係数(kg/kWh)	0.402	0.464	0.464	
水使用量(横浜工場)	m ³ /年	1,224	1,322	1,490	
産業廃棄物の収集運搬量	t/年	54,811	59,063	73,031	
受託した産業廃棄物の処分量	t/年	138,554	143,673	183,275	
リサイクル率	%	100.0	100.0	* 94	* 最終処分量111t

7.3 平成28年度の目標と実績

平成28年4月から平成29年3月迄の平成28年度活動実績を下記に示す。

項目	単位	H27年度実績値 (参考)	H28年度 実行目標値	H28年度 実績値	達成率(%)	
電力使用量	横浜工場	kwh/年	169,061	195,000	188,707	103
		kwh/処分量	1.18	1.11	1.03	108
	本社	kwh/年	9,308	9,000	9,260	97
	全社合計	kwh/年	178,369	204,000	197,967	103
軽油使用量(重機)	L/年	153,433	186,000	180,123	103	
	L/処分量	1.07	1.06	0.98	108	
軽油使用量(車両)	L/年	193,928	220,000	212,260	104	
	L/収集量	3.28	3.01	2.91	104	
ガソリン(営業車、本社)	L/年	4,390	5,000	3,887	129	
温室効果ガス排出量(注1,2)	Kg-CO₂/年	1,004,549	1,171,978	1,130,627	104	
水資源投入量	m ³	1,322	1,500	1,490	101	
	ℓ/処分量	9.20	8.57	8.13	105	
一般廃棄物の排出量	kg/年	588	648	660	98	
産業廃棄物の収集運搬量	t/年	59,063	73,000	73,031	100	
産業廃棄物の処分量 (リサイクル量)	t/年	143,673	175,000	183,275	105	
廃棄物最終処分量	Kg/処分量	0.00	0.00	0.63		
業務の環境への配慮	年次計画	環境&安全	防災備蓄品の見直し、地域融和の促進、8項に記載			
グリーン購入	%	100	チェックシートで定性管理			

注1) 電力の二酸化炭素排出量は、排出係数0.464kg-CO₂/kWhで算出。

注2) 二酸化炭素排出量には、都市ガス、灯油を含んでいない。

7.4 平成28年度環境活動の取組結果の分析

(1) CO₂ガス排出量

収集量、処理量の増加に伴い温室効果ガス排出量も増加した。自社排出の90%以上が重機及びダンプの軽油使用量で占める。軽油使用量削減が環境上の課題である。

(2) 総エネルギー投入量及び温室効果ガス排出量

電力使用量は大幅な増加となった。これは中間処理量がH27年度から28%の増加及び処理原料の「大塊ガラ」に伴う破碎作業における使用量増加による。しかし処理量原単位は、H27年度の1.1からH28年度は1.08kWh/処分量に向上した。

重機使用量の増加は、処理増の大幅増及び「大塊ガラ」の増に伴う、破碎作業の負荷増が主因。

収集運搬は積載効率向上のため、往復輸送(再生砕石輸送車が、帰り便で近郊の廃棄物を積載)の推進、エコドライブ強化で使用量抑制、1台あたり収集量向上に努めた。その結果、原単位・使用量とも目標値を達成した。

(3) 水使用量

当社の水使用は、発塵防止用散水と生活用水である。発塵防止用の散水が圧倒的に多い。タイヤプール及び場内散水作業は、環境保全上必要な消費と考えている。プラント内の散水噴霧設備を更新し、散水効率を図った。設備更新と節水努力で使用量・原単位ともに目標値をクリア出来た。

(4) 産業廃棄物の収集運搬量、中間処理量

収集運搬は積載効率向上のため、往復輸送(再生砕石輸送車が、帰り便で近郊の廃棄物を積載)の推進、1台あたり収集量向上に努めた。更に笠比重の高い「大塊」ガラの輸送となり、1台当たりの積載量も増加した。その結果、収集運搬量はH27年度5.9千トンから、H28年度は7.3千トンと、約20%の増量となった。

中間処理製品の品種を需要が安定している再生砕石に重点を移した。これに伴い受人原料(廃棄物)を、軋さいから大塊などの「ガラ」を増加させた結果、中間処理量がH27年度14万トンから、18万トンに大幅に増加した。

昨年度までは処理後の商品貯留余力で処理量が決まっていたが、H28年度は文字通り工場の処理能力が限界に達した。H28年度からは台貫設置に伴い、収集量、処理量ともに実重量となり、数字上も換算誤差がなくなった。

(5) 産廃及び一廃排出量

当社における産廃&一廃の排出は下記の通りであるが、100%リサイクルを目標に努力している。

- ① 受け入れた産業廃棄物に混入している金属くず、木くず、プラスチックくず⇒全量リサイクル
- ② 横浜工場から出る廃油⇒全量リサイクル
- ③ 横浜工場・本社から出る一般廃棄物⇒焼却処理

(6) グリーン購入&化学薬品

グリーン購入品が多肢に亘るため、チェックシートで活動を評価している。化学薬品の使用はありません。

7.4 次年度の取組(新中期計画の設定)

項目		単位	基準値 (平成28年度)	29年度 (目標値)	30年度 (目標値)	31年度 (目標値)
電気使用量	横浜工場	Kwh/年	188,707	0%	0%	0%
		kwh/処分量	1.03	1.06	1.05	1.04
	本社	Kwh/年	9,260	0%	0%	0%
	全社	Kwh/年	197,967	0%	0%	0%
軽油使用量(重機)	L/年	180,123	0%	△2%	△3%	
	L/処分量	0.98	1.00	0.99	0.98	
軽油使用量(収集運搬車両)	L/年	212,260	0%	5%	8%	
	L/収集量	2.91	2.90	2.89	2.88	
ガソリン使用量(営業車両)	L/年	3,887	2%	2%	2%	
			4,000	4,400	4,800	
温室効果ガス排出量(*,*,*)	kg-CO ₂ /年	1,137,754	0%	1%	3%	
			1,133,428	1,156,367	1,176,975	
水使用量(総排水量) (横浜工場)	m ³ /年	1,490	0%	0%	0%	
	L/処分量	8.13	8.50	8.50	8.50	
	本社		チェックシートで定性管理			
自社一般廃棄物の削減	kg/年	660	0%	0%	0%	
			650	650	650	
産業廃棄物の収集運搬量	t/年	73,031	3%	5%	10%	
			75,000	77,000	80,000	
産業廃棄物の処分量 (リサイクル量)	t/年	183,275	0%	0%	0%	
			180,000	180,000	180,000	
業務の環境への配慮	年次計画	環境 & 安全	防災備蓄品の見直し、地域融和の促進			
グリーン購入	%	100	チェックシートで定性管理			

(*) 電力の二酸化炭素排出量は、排出係数0.500kg-CO₂/kWh(東京電力、H27年度実績、H28.12.27公表)

(**) 二酸化炭素排出量には、都市ガス、灯油は含まない

[次年度目標値の設定の考え方]

- ① 28年度実績値を元に、中期環境目標値の見直しを行う。
- ② 横浜工場の電力使用量は使用量、原単位共に限界値と思われるので、28年度実行目標値横這いとする。
- ③ 工場内重機の軽油使用量は、分別作業の効率化、低燃費ホイールローダーへの重機更新効果を見込み、使用量、原単位共に努力目標として、各年1%削減を図る。
- ④ 収集運搬用軽油は、28年度実績値の燃費向上を図るが、輸送量増加に伴い、使用量は増加を見込むが、輸送の推進、デジタルドライブレコーダーの活用で燃費管理、最適走行ルートの指示を徹底し、軽油使用量の一層の削減を推進する。
- ⑤ ガソリン使用量は、営業圏の拡大に伴う走行距離増を見込んで設定する。参考に燃費データを合わせて採取し、エコドライブの実施状況の自己管理を徹底する。
- ⑥ 発じん防止用散水は、原料(再生処理前ガラ等)及び製品(再生砕石)への散水を計画する。
本社の水道使用量は家賃に含まれるため、チェックシートで節水を評価する。
- ⑦ 自社排出一般廃棄物削減は、排出量抑制に努力する。
- ⑧ 企業の環境配慮として首都直下型地震対応として防災関係の見直しと、地域融和促進を環境目標に設定する
- ⑨ グリーン購入は可能な限り再生品の使用を心掛ける。年度末にチェックシートで活動を評価する。
- ⑩ 化学物質の使用はありません。

8. 業務の環境配慮活動（地域の環境保全と安全衛生活動の強化）

8.1 道志水源林保全活動に協力いたしました(水のふるさと道志の森基金) (H28.12.2)

横浜市には浄水場が3つあります。そのひとつである川井浄水場は弊社のすぐ近くです。川井浄水場は山梨県南都留郡道志村から神奈川県までを流れる道志川を水源としています。地域貢献活動の一環として「水のふるさと道志の森基金」への寄附をし、道志水源林保全活動に協力しました。



道志水源林の森林整備で活躍するボランティアのみなさん



8.2 横浜工場内外の清掃、周辺地域の環境保全活動を実施しました (H28.11.16)

当社は横浜工場内外の清掃、緑化活動、周辺地域の生物調査活動などを、手待ち時間などに随時行っています。例年、たぬき、カブトムシなども発見でき、生物多様性を確認しました。



8.3 防災訓練の実施 (H28.12.1)

「初期消火活動」を中心に訓練いたしました。火災を発見し場内無線にて連絡 → 工場従業員は作業を中止し近くにある消火器を持参して参集 → 初期消火活動にあたる
期限切れ消火器を利用して実際に噴霧し、より実践的なものいたしました。



9. 社長による総合評価と全体の見直し

実施日：平成29年5月18日(木)

報告項目	管理責任者からの報告内容	社長判定
環境経営システム構築	EA21は順調に活動を進めている。推進体制・環境経営システムの改訂は特はない。人事異動として環境管理責任者が望月事業部長から倉内工場長と交代する。	○
環境目標	今年度は品質強化も加味して目標に取り組んだ。全般に目標値をクリアすることが出来た。収集量、処理量の増加及び原料の大塊化により、工場の電気、重機燃料使用が増加傾向となったが、原単位は削減傾向である。収集運搬車の軽油燃費も、積載率向上で燃費が向上した。	○
環境関連法規制	環境法規制登録一覧表の様式を一新し、該当条文名と順守内容を明確にし、遵守体制を整備した。フロン発生抑制法のエアコン点検、改正消防法の消火器耐用年数も順守に問題はなかった。他の法令の順守も問題なかった。	○
外部から苦情・要望	環境に関わる苦情・要望等ない。	○
緊急事態の想定及び訓練	H28年12月1日工場火災を想定した訓練を実施。対応手順書の改訂は必要ないが、消火器の位置、使用法の更なる周知を図る。通報者・伝達者の機敏さ・的確さがかなり評価できる。	○
前回の指示事項の是正状況	前年度の指示事項「EA21の更なる活性化のため、運用方法の見直しを図ること」は、①横浜工場内の5S活動の徹底。特に構内美化及び作業通路の清掃。②きめ細かい散水による発塵防止③工場周辺の環境保全及び地域融和の更なる促進、を推進した。	○
社長からの指示	① 今年度は品質強化も加味して目標に取り組んだ結果、全員の努力と協力で良好な成果が出たことを感謝する。 ② 本年度は収集量、中間処理量ともに大幅な増加である。次年度目標値は、これら条件を加味して見直すこと。 ③ 環境配慮活動として、地域との融和が重要である。防災活動に併せ環境目標として検討すること。 ④ ドライブレコーダーをうまく活用し、軽油の燃費改善に合わせて、安全運行の徹底を図ること。	

変更の必要性の有無

①環境方針	変更なし	環境方針を変更すべき事項はない。
②環境目標	変更あり	収集量、中間処理量の変動に対応した目標値の見直し
③環境活動計画	変更あり	環境配慮として、地域との融和強化を環境活動計画に織り込むこと。
④環境経営システム	変更なし	EA21ガイドラインの改正動向に留意しておくこと。

10. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

関連法規の順守は、平成29年3月順法性を自己チェックした結果、法律違反がない事を確認しました。また、過去3年間、関係当局から法律違反の指摘及び指導を受けたことも、住民提訴を受けたこともありません。

当社に関係する環境関連法規は、下記の通りです

- 廃棄物処理法
- 騒音規制法、振動規制法
- 消防法
- フロン排出抑制法
- 労働安全衛生法
- 横浜市生活環境の保全等に関する条例
- 自動車NOX・PM法
- オフロード法
- 自動車車両法
- 道路交通法
- 道路運送車両法